

識別番号	L 3
研究課題	Globalizing Food Consumption and the Construction of Social Identity
研究代表者	Farrer, James (国際教養学部・国際教養学科、比較文化研究所)
共同研究者	Grove, Linda (国際教養学部・国際教養学科、比較文化研究所) Wank, David (国際教養学部・国際教養学科、比較文化研究所) 寺田 勇文 (外国語学部・アジア文化研究室) 吉野 耕作 (総合人間科学部・社会学科) Neves, Mauro (外国語学部・ポルトガル語学科) 谷 洋之 (外国語学部・イスパニア語学科)
Summary	This joint research projects examines and compares changes in the culture of food consumption and production in the globalizing areas of the Pacific Rim, in China, Latin America and Southeast Asia. The methodology consists of seven in-depth ethnographic case studies. In field sites in Shanghai, Shanxi, and Hubei in China, Philippines, Malaysia in South East Asia, Mexico and Brazil in Latin America, each of the seven members are each gathering data on a particular feature of food consumption and production, focusing on the dynamics of globalization and localization in local food cultures. Data include in-depth interviews, textual and visual analysis. Theoretically, these processes of globalization and localization, are not conceptualized as opposed to each other as a kind of global invasion and local reaction, but are rather as a single interlinked process that in which both local and transnational actors are important. Transnational flows of food products, agribusiness capital, consumption patterns, transnational culinary practices and even images of food consumption are shaped and even instigated or promoted by local economic, social and political actors. This project focuses on identifying these local and transnational actors and conceptualizing how food cultures are formed in this “glocalizing” process. Food culture is conceptualized in this project in terms of a multi-layered social identity, including local, regional, and national dimensions of social identity. One of the key findings of the project is the ways in which national and local identities associated with food production and consumption are reconfigured in processes of globalization. Each researcher has uncovered ways in which local and national cuisines are themselves the products of transnational flows and local social processes reacting to and shaping transnational flows. The main goal in the rest of the year is integrating and comparing our empirical findings and producing written reports for a symposium scheduled for Feb. 21-22.

1. 研究の目的

(1) 「食」の消費に関する民族誌の作成を行う。その際：

- ① 「グローバル化」による経済的・社会的・文化的変化の激しい環太平洋圏およびその周辺地域を対象とする。具体的には、中国（河北省、山西省、上海市）、フィリピン、マレーシア、メキシコ、ブラジルである。

- ② 「グローバル＝ローカル相互作用」を手がかりにする。ここでいう「グローバル＝ローカル相互作用」とは、従来議論されてきた「グローバル化＝世界標準化」あるいは「グローバル化＝アメリカ化」といった極度に単純化された枠組みを拒否し、グローバルな事象がローカル化される形で受容されたり（例えば、我が国における「ライスバーガー」など）、逆にローカルな事象がグローバルな事象に転化したり（例えば、寿司の国際化など）する複雑な過程を想定している。
- (2) それぞれの地域で形成されつつある地場(local)、国家(national)、地域(regional)、グローバル(global)など重層的なアイデンティティの様態を把握する。その際：
- ① フィールドワークに基づいた綿密な研究を基盤とし、その成果を社会学、人類学、経済学、経済史、地域研究等の手法により検証する。
 - ② 分析にあたっては、「伝統的／ローカルな」生産物および「外国の／輸入された」生産物のそれぞれの現況と、それら相互の関係を主な研究対象とするが、それに加えて、(1)食糧／食品の生産を軸として変容しつつある社会関係、(2)社会階層間の地位の差異が食物／食品の消費を通じていかに表出されているか、(3)「ローカル」「リージョナル」「ナショナル」「インターナショナル」「グローバル」なアイデンティティが食品のブランド化や消費行動を通じていかに表出されているか、(4)「伝統」「近代」などの概念が食品のブランド化や消費行動を通じていかに表出されているか、の諸点にも留意する。

2. 研究の計画

- (1) 平成 19 年度においては、フィールドワークを中心とした現地調査を研究活動の中心に据えた。
- ① 本研究においては、現地におけるフィールドワークを重視し、それに基づいた事例研究をデータとして使用することを計画した。調査対象地域は、中国北部（山西省、河北省）、中国南部（上海市、常熟市）、フィリピン（マニラ）、マレーシア（クアラルンプル）、メキシコ（メキシコ市、ハリスコ州）、ブラジル（サンパウロ）を予定していた。
 - ② フィールドワークは、民族誌的手法と歴史学的手法を組み合わせ実施し、聴き取り調査と史料分析を組み合わせることにより、食糧／食物／食品の生産と消費のパターンの通時的把握を企図した。調査の過程では文字媒体に加えて、図像やビデオカメラによる映像資料等を積極的に活用することも目指した。
 - ③ データの収集と分析にあたっては、「伝統的／ローカルな」生産物および「外国の／輸入された」生産物それぞれの現況、ならびにそれら相互間の関係を主な研究対象とするが、それに加えて、(1)食糧／食品の生産を軸として変容しつつある社会関係、(2)社会階層間の地位の差異が食物／食品の消費を通じていかに表出されているか、(3)「ローカル」「リージョナル」「ナショナル」「インターナショナル」「グローバル」なアイデンティティが食品のブランド化や消費行動を通じていかに表出されているか、(4)「伝統」「近代」などの概念が食品のブランド化や消費行動を通じていかに表出されているか、の諸点にも留意することとした。
- (2) 他地域を対象とする食文化研究者を招いてワークショップを春・秋学期各 2 回程度開催することを計画した。データのさらなる蓄積、比較的視座の獲得、および次年度開催予定の国際シンポジウムに向けた人的ネットワークの構築がその主な目的であった。

3. 研究の成果

- (1) 積極的にフィールドワークを行ったことによりデータの蓄積を図ることができた。
- ① 中国各地、フィリピン、マレーシア、メキシコにおける現地調査により、基礎資料（文献お

よび映像)ならびにフィールド・データの収集を図ることができた。なお、当初実施予定であったブラジルでの現地調査に関しては、当該研究分担者の担当課題を「映画に表象されるメキシコの『食』」に変更することとしたため、メキシコ(メキシコ市、グアダラハラ市、ベラクルス市、モンテレイ市)に変更して実施した。

② 研究分担者全員が出席して研究会を数次にわたり開催し、調査結果のシェアおよびフィードバックを行うことができた。またその過程で、次年度開催予定の国際シンポジウムの検討課題および招聘研究者の選定に向けた議論を重ねることができた。

4. 研究の反省・考察

(1) 現地調査および数次にわたるワークショップの開催によりデータの蓄積は順調に進めることができた。

① 現地調査の成果を報告し、またそれらについて議論する過程で、分担研究課題および本研究全体におけるそれらの位置づけが精緻化され、次年度開催予定の国際シンポジウムの検討課題に関する議論が次第に収斂するところとなった。

② ワークショップ開催を契機に築かれつつある人的ネットワークにより、上記国際シンポジウムへの招聘研究者の人選も順調に進みつつある。

(2) 当初、計画していたワークショップおよび現地調査の成果を基にしたワーキングペーパーの公表は、平成19年度中にこれを行うことができなかった。

① これについては、平成20年度に入り各研究分担者が鋭意作成しており、本研究の活動母体である上智大学比較文化研究所ホームページ上で公開するか、各研究分担者がそれぞれの所属学会等で報告を行なう予定である。